

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 1 科 目 名 : 哲学

担当講師名 : 非常勤講師

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教育目標(到達目標) : 哲学(とりわけ現象学)・倫理学の考え方を身につけ、実践に役立てる。

【講義概要】

概念の具象化・またはその逆方向への思考などを通して、あたりまえにとらえがちな事象について、立ち止まって深く考えることを体験する。

回数	項 目	内 容
1	イントロダクション	哲学という学問について考える
2	倫理学(1)	倫理学(道徳哲学)の問題意識に触れる
3	倫理学(2)	「幸福」について哲学的に考える
4	倫理学(3)	ディスカッションとグループワーク
5	倫理学(4)	「義務」と「権利」について哲学的に考える
6	倫理学(5)	ディスカッションとグループワーク
7	倫理学(6)	「生き方」について哲学的に考える
8	倫理学(7)	ディスカッションとグループワーク
9	近代哲学と現象学(1)	近代という時代の特徴について考える
10	近代哲学と現象学(2)	近代的なものの見方とその問題点について考える
11	近代哲学と現象学(3)	現象学の根本的な発想について考える
12	近代哲学と現象学(4)	現象学的な身体論について考える
13	近代哲学と現象学(5)	現象学とリハビリテーションの関係について考える
14	全体の復習	授業内容を振り返り、テストに向けて準備を行う
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義とグループディスカッションを交互に行う。

基本テーマの中から1つを選び、講義期間を通してレポート課題に取り組む。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： 心理学

担当講師名： 非常勤講師

単 位： 2 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 心理学の科学的手法を学び、応用学問である臨床心理学を体系的に理解する。

検査の種類、援助技法に対する知識を深め、作業療法士としての臨床心理学的援助のあり方を検討する。

【講義概要】

「心理検査の成り立ちと結果の診かた」と「心理療法のアプローチ方法」を2本の柱として、とくに発達障害・精神障害領域の作業療法との関連を学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	心理学と臨床心理学の基礎概念	心理学とは、臨床心理学とは、心理学研究の基礎概念
2	心理学と臨床心理学の歴史	心理学史と臨床心理学史の概観
3	心理学研究	心理学研究の種類、実験法・質問紙法の考え方、治験・介入研究への応用
4	推測統計の考え方、検査理論	尺度水準、統計的仮説検定、信頼性と妥当性、標準化
5	学習・認知・記憶	学習理論、メタ認知、記憶の種類、知能の構造
6	知能検査・発達検査	ビネー式、ウェクスラー式、学習能力検査、発達検査
7	パーソナリティ検査	パーソナリティ理論、質問紙検査、投影法検査、作業検査
8	健康状態の検査・認知機能検査	精神疾患（不安、うつ病、統合失調症）の検査、神経認知検査
9	精神分析的アプローチ	フロイトの理論、分析心理学、個人心理学、自我心理学、現存在分析
10	認知行動的アプローチ	曝露療法、系統的脱感作、プログラム学習、認知療法、合理情動行動療法
11	来談者中心的アプローチ	ロジャーズの理論、カウンセリングの考え方、カウンセラーの基本的態度
12	代表的な心理療法	集団療法、自律訓練法、森田療法、内観療法、箱庭療法、芸術療法
13	精神障害者に対する援助	面接技法（インテーク、基本対応）、作業療法士としての関わり方
14	講義内容の総括	講義全体のポイント整理
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

基本的に講義中心の授業を行い、一部の心理検査については、プライバシー保護の及ぶ範囲内で体験する。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： 社会学

担当講師名： 非常勤講師

単 位： 2 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 社会学の基礎概念を学習することで、様々な社会現象とその背景について、自ら分析・考察していく力を養う。

【講義概要】

さまざまな集団（対象者との関係・人数）での相互行為・コミュニケーションについて、系統立てて学習する。

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	社会学とは何か。社会学という学問について紹介する。
2	社会的行為	ウェーバーの行為類型論を中心に、行為とその社会的条件について学ぶ。
3	動機の語彙	行為者による行為説明の言葉から社会を考える。
4	自己と他者	ミードの理論を中心に、社会化と「私」の構成原理について学ぶ。
5	集団と組織（1）	集団化がもたらす諸効果について探る。
6	集団と組織（2）	官僚制とその逆機能を中心に、組織社会学の基本を学ぶ。
7	家族（1）	近代家族とその特徴を捉える。
8	家族（2）	家族の多様性、親密性の変容について。
9	ライフ	少子高齢化とライフコースの変容について。
10	福祉社会	貧困問題を中心に、社会保障の基本的考え方を学ぶ。
11	消費社会	消費という観点から現代社会の特徴を捉える。
12	リスク社会	ベックの理論を中心に、リスクという観点から現代社会の特徴を捉える。
13	自殺論	デュルケームの議論から、現代日本社会の自殺問題を考える。
14	相互行為	ゴフマンの議論を中心に、共在の諸技法について考える。
15	まとめ	復習と総括

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

主に講義形式で授業を行う。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： 情報科学

担当講師名： 非常勤講師

単 位： 2 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 数量的分析法の意義と手順を身に付け、科学的実証研究を実践できるようになる。

【講義概要】

量的研究における解析的手法について学ぶ。

汎用的なソフトを使用した統計処理の実技を通して、物事の数量的分析の可能性を考える。

回数	項 目	内 容
1	数量的研究とは	統計学とは、作業療法士が数量的研究手法を身に付ける意味とは
2	基礎統計（1）	データとは、尺度の種類、代表値と散布度
3	基礎統計（2）	分散と標準偏差の求め方
4	推測統計（1）	正規分布とその性質、母集団と標本
5	推測統計（2）	平均値の区間推定、標本数の求め方
6	統計的検定（1）	仮説検定の仕組み、2つの過誤
7	統計的検定（2）	t 検定、分散分析～基本的な考え方～
8	統計的検定（3）	比率の差の検定、 χ^2 検定
9	相関と回帰（1）	相関分析
10	相関と回帰（2）	回帰分析
11	パソコン演習（1）	Excelの基本操作、表とグラフ
12	パソコン演習（2）	Excelを使用した検定
13	パソコン演習（3）	Excelを使用した相関と回帰
14	より高度な分析	多変量分析（重回帰分析、因子分析など）の考え方と手法
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義と計算演習を中心とし、期間の後半でパソコンソフトを用いた演習を行う。
 計算演習では電卓を、パソコン実習ではフラッシュメモリをそれぞれ使用する。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： 生物学

担当講師名： 非常勤講師

単 位： 2 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 各専門科目を学ぶうえでの土台となる部分を学習します。

【講義概要】

人体の構成の基本をなす細胞に着目して、構造・はたらき・遺伝について学ぶ。

浸透圧・モル濃度・遺伝・世代について、具体的な計算演習を行う。

回数	項 目	内 容
1	細胞の構造(1)	細胞小器官と機能
2	細胞の構造(2)	細胞膜、演習
3	体細胞分裂(1)	体細胞分裂の機序
4	体細胞分裂(2)	細胞周期、演習
5	代謝(1)	酵素の基本的性質
6	代謝(2)	ミカエリス定数、演習
7	代謝(3)	呼吸と発酵
8	DNA(1)	ヌクレオチド、基本構造
9	DNA(2)	半保存的複製、岡崎断片
10	セントラルドグマ(1)	遺伝子発現の流れ
11	セントラルドグマ(2)	コドンの扱いとタンパク質
12	セントラルドグマ(3)	突然変異の影響
13	免疫(1)	体液性免疫
14	免疫(2)	細胞性免疫
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

主に講義形式で授業を行う。

各授業時間内で、簡単な数値計算を含む演習を行う。電卓は不要。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： 医学英語

担当講師名： 板倉 麻紀

単 位： 2 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 診療録の記載において不可欠な専門的な英単語や略語について、

具体的な使用場面への対応を想定して学ぶ。英語論文の要旨を和訳するスキルを習得する。

【講義概要】 国内外の作業療法雑誌の要旨・全文のグループ抄読。

リハビリテーションの臨床現場でよく使われる英語表現を学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	専門用語を学ぶ	人体の諸臓器を英語で何と言うか、穴埋め式課題を通じて学習する。
2	専門用語を学ぶ	臨床現場で使用頻度の高い専門用語や略語の英語表現を学ぶ。
3	専門用語を学ぶ	臨床現場で使用頻度の高い専門用語や略語の英語表現を学ぶ。2回目。
4	ヒトの体系を英語で表現する	細胞・器官に関する短い文章を読む。
5	ヒトの体系を英語で表現する	骨・筋に関する短い文章を読む。
6	ヒトの体系を英語で表現する	循環器に関する短い文章を読む。
7	ヒトの体系を英語で表現する	呼吸器に関する短い文章を読む。
8	日本語論文の英文要旨を読む	身体障害領域の論文の英文要旨を読む。
9	日本語論文の英文要旨を読む	精神障害領域の論文の英文要旨を読む。
10	日本語論文の英文要旨を読む	高齢期領域の論文の英文要旨を読む。
11	英文抄読：グループワーク	グループごとに1つの英語論文に取り組む。計3回の授業を通じて、和訳作業・資料作成などを行う。全訳をただ読み上げるのではなく、未読者に内容をわかりやすく伝える工夫が望まれる。
12	英文抄読：グループワーク	
13	英文抄読：グループワーク	
14	英文抄読：グループ発表	英文雑誌の抄読会。グループごとに発表を行う。
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

グループワークと口頭発表を中心とした授業を行う。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 1 科 目 名 : 解剖学 I

担当講師名 : 非常勤講師

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教育目標 (到達目標) : 人体の構造を機能と関連させて理解する

【講義概要】

人体解剖学を3つのパートに分けて学習する。

解剖学 I では、総論・内臓学を扱う。

回数	項 目	内 容
1	解剖学総論	解剖学の定義、解剖学用語と人体の区別
2	細胞	細胞の構成要素、細胞分裂と染色体
3	組織 1	上皮組織
4	組織 2	支持組織
5	循環器系 1	血管、心臓、動脈
6	循環器系 2	静脈、胎児循環、リンパ系
7	呼吸器系	鼻、咽頭、喉頭、気管と気管支、肺、胸膜と縦隔
8	消化器系 1	口腔、食道、胃、小腸、大腸
9	消化器系 2	肝臓、膵臓、腹膜
10	泌尿器系	腎臓、尿路
11	生殖器系 1	男性生殖器
12	生殖器系 2	女性生殖器、会陰
13	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、副腎、その他
14	感覚器系	皮膚、視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

授業は講義を中心として行うが、配布資料を参考に各自の未習熟部分を補完すること。

スライド画像を用いて説明するので、毎回プロジェクターの準備が必要。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： 解剖学Ⅱ

担当講師名： 非常勤講師

単 位： 1 単 位 教 育 時 間： 30 時 間

教育目標（到達目標）： 人体の構造を機能と関連させて理解する

【講義概要】

人体解剖学を3つのパートに分けて学習する。

解剖学Ⅱでは運動器系を扱う。

回数	項 目	内 容
1	骨学総論	骨の形態・構造・血管・神経・機能・発生・再構築
2	骨学各論1	頭蓋骨
3	骨学各論2	脊柱・胸郭の骨
4	骨学各論3	上肢の骨
5	骨学各論4	下肢の骨
6	関節・靭帯総論,各論1	骨の連結、関節の構造と機能、頭蓋・脊柱・胸郭の連結
7	関節・靭帯各論2	上肢の連結
8	関節・靭帯各論3	下肢の連結
9	筋学総論	筋組織の種類、骨格筋の構造・作用・神経支配
10	筋学各論1	体 幹：頭・頸・胸・腹・背部の筋
11	筋学各論2	上肢1：上肢帯、上腕の筋
12	筋学各論3	上肢2：前腕、手の筋
13	筋学各論4	下肢1：下肢帯、大腿の筋
14	筋学各論5	下肢2：下腿、足の筋
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

授業は講義を中心として行うが、配布資料を参考に各自の未習熟部分を補完すること。

スライド画像を用いて説明するので、毎回プロジェクターの準備が必要。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： 解剖学Ⅲ

担当講師名： 非常勤講師

単 位： 1 単 位 教 育 時 間： 30 時 間

教育目標（到達目標）： 人体の構造を機能と関連させて理解する

【講義概要】

人体解剖学を3つのパートに分けて学習する。

解剖学Ⅲでは神経系を扱う。

回数	項 目	内 容
1	神経系総論 1	神経系の区分、神経系の構成
2	神経系総論 2	髄膜、脳室系、神経系の発生
3	中枢神経系 1	脊髄
4	中枢神経系 2	脳幹
5	中枢神経系 3	小脳
6	中枢神経系 4	大脳 1
7	中枢神経系 5	大脳 2、神経路 1
8	中枢神経系 6	神経路 2
9	末梢神経系 1	脊髄神経 1
10	末梢神経系 2	脊髄神経 2
11	末梢神経系 3	脊髄神経 3
12	末梢神経系 4	脳神経 1
13	末梢神経系 5	脳神経 2
14	末梢神経系 6	脳神経 3、自律神経
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

授業は講義を中心として行うが、配布資料を参考に各自の未習熟部分を補完すること。

スライド画像を用いて説明するので、毎回プロジェクターの準備が必要。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 1 科 目 名 : 生理学 I

担当講師名 : 非常勤講師

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教育目標 (到達目標) : 人体の生理機能の「恒常性」を総合的に理解し、生命現象を分析的に観察する能力と、病態を思索するために必要な知識を身につける。

【講義概要】

生理学とは、人体の正常機能の理解に不可欠な生命現象について学ぶ学問である。

生理学 I では、主に興奮の伝導・伝達、筋・骨、中枢神経系を扱う。

回数	項 目	内 容
1	生命現象と人体	1) 身体の階層性 2) 生命現象 3) 水 4) ホメオスタシスと負のフィードバック
2	細胞の構造と機能	1) 細胞膜 2) 核 3) 細胞小器官 4) 静止電位と活動電位
3	神経の興奮伝導と末梢神経 (1)	1) 神経細胞の構造 2) 興奮の伝導
4	神経の興奮伝導と末梢神経 (2)	1) 末梢神経の種類 2) 自律神経
5	神経の興奮伝導と末梢神経 (3)	1) シナプスにおける興奮の伝達
6	中枢神経系 (1)	1) 中枢神経系の構成と機能 2) 脊髄の構造と機能
7	中枢神経系 (2)	1) 脳幹の機能 2) 自律神経中枢 3) 脳幹がつかさどる反射と脳死判定
8	中枢神経系 (3)	1) 間脳: 視床と視床下部 2) 小脳の機能
9	中枢神経系 (4)	1) 大脳の機能 2) 脳室と脳脊髄液 3) 血液脳関門
10	筋と骨 (1)	1) 筋の分類 2) 骨格筋の構造 3) 神経による骨格筋の支配
11	筋と骨 (2)	1) 骨格筋の興奮収縮連関 2) 骨格筋の収縮 3) 骨格筋線維の種類
12	筋と骨 (3)	1) 筋の肥大と萎縮 2) 筋紡錘とGolgi腱器官 3) 筋電図
13	筋と骨 (4)	1) 心筋の活動電位と興奮収縮連関 2) 収縮経過と不応期 3) 長さ-張力関係 4) 収縮性
14	運動生理	1) 筋力と持久力 2) 筋収縮のエネルギー源 3) 運動に伴う全身の変化 4) トレーニング効果 5) 加齢変化
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

学生自ら学ぶ姿勢の確立や説明する力を育成するために、授業では一方的に教えることは

極力せず、学生の疑問に答える形を基本とする。予習をして、疑問点を明らかにしておくこと。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： 生理学Ⅱ

担当講師名： 非常勤講師

単 位： 1 単 位 教 育 時 間： 30 時 間

教育目標（到達目標）： 人体の生理機能の「恒常性」を総合的に理解し、生命現象を分析的に観察する能力と、病態を思索するために必要な知識を身につける。

【講義概要】

生理学とは、人体の正常機能の理解に不可欠な生命現象について学ぶ学問である。

生理学Ⅱでは、主に感覚器と循環器を扱う。

回数	項 目	内 容
1	テストの復習	生理学Ⅰのテストに関する復習
2	感覚（1）	1) 感覚とは 2) 適刺激と閾値 3) Weberの法則 4) 感覚の順応
3	感覚（2）	1) 体性感覚（皮膚感覚と深部感覚） 2) 内臓感覚（臓器感覚と内臓痛覚）
4	感覚（3）	1) 特殊感覚 2) 視覚 3) 聴覚 4) 平衡感覚 5) 味覚 6) 嗅覚
5	血液（1）	1) 血液の組成と機能 2) 赤血球 3) 血小板
6	血液（2）	1) 白血球 2) 血漿 3) 血液型
7	心臓と循環（1）	1) 血液の循環 2) 心臓の興奮と刺激伝導系
8	心臓と循環（2）	1) 心電図 2) 血液の拍出と血圧 3) 心周期
9	心臓と循環（3）	1) 前負荷・後負荷と収縮性 2) 心機能曲線 3) 血圧の調節
10	心臓と循環（4）	1) 微小循環と物質交換 2) 静脈還流 3) 臓器循環 4) リンパ循環
11	呼吸とガスの運搬（1）	1) 外呼吸と内呼吸 2) 気道と肺胞 3) 呼吸運動 4) 呼吸気量
12	呼吸とガスの運搬（2）	1) ガス交換とガスの運搬 2) 呼吸の調節 3) 病的呼吸
13	尿の生成と排泄（1）	1) 腎臓の役割 2) 腎臓の構造 3) 尿の生成
14	尿の生成と排泄（2）	3) クリアランス 2) 排尿 3) 尿の性状と排尿の異常
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

学生自ら学ぶ姿勢の確立や説明する力を育成するために、授業では一方的に教えることは極力せず、学生の疑問に答える形を基本とする。予習をして、疑問点を明らかにしておくこと。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： 生理学Ⅲ

担当講師名： 非常勤講師

単 位： 1 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 人体の生理機能の「恒常性」を総合的に理解し、生命現象を分析的に観察する能力と、病態を思索するために必要な知識を身につける。

【講義概要】

生理学とは、人体の正常機能の理解に不可欠な生命現象について学ぶ学問である。

生理学Ⅲでは、その他の植物的機能について学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	酸塩基平衡	1) 血漿のpH調節 2) アシドーシスとアルカローシス
2	テストの復習	生理学Ⅱのテストに関する復習
3	代謝と体温（1）	1) 栄養素 2) エネルギー代謝
4	代謝と体温（2）	1) 体温
5	内分泌（1）	内分泌機能とホルモン
6	内分泌（2）	各腺からの分泌されるホルモンの作用□下垂体、視床下部、甲状腺、副甲
7	内分泌（3）	各腺からの分泌されるホルモンの作用□副腎皮質と髄質、膵臓、性腺、そ
8	生殖と発生（1）	1) 男性生殖器
9	生殖と発生（2）	1) 女性生殖器 2) 受精、着床、胎児の発生
10	成長と老化	1) 成長（身体、身体機能の成長） 2) 老化（各器官系の老化）
11	消化と吸収（1）	1) 消化器の役割 2) 口腔内消化と嚥下 3) 食道における食物輸送
12	消化と吸収（2）	1) 胃の役割と消化 2) 十二指腸における消化
13	消化と吸収（3）	1) 空腸・回腸における消化と栄養素の吸収□大腸の役割 3) 肝臓の
14	総復習	恒常性維持機構を中心とした総復習
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

学生自ら学ぶ姿勢の確立や説明する力を育成するために、授業では一方的に教えることは極力せず、学生の疑問に答える形を基本とする。予習をして、疑問点を明らかにしておくこと。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 1 科 目 名 : 人間発達学

担当講師名 : 非常勤講師

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教育目標 (到達目標) : ①人間発達の過程を学び多角的・統合的視点をもつこと。

②自身の今までとこれからを振り返り考え、学びを活かせるようにすること。(実践的学び)

③1人の人間の成長過程を知ることによって自分や他者を尊重し、リハビリテーションに関わる職業人の一助とする。

【講義概要】

ヒトの誕生から死亡までの生涯発達を追う。

各発達段階の特徴を切り口のひとつとして、人間の行動心理を理解する。

回数	項 目	内 容
1	人間発達学の全体像	人間発達学とは? 学び方の視点、視野、視座について
2	総論①	新生児期～学童期 子どもの頃の記憶、環境とは?
3	各論①	命の誕生 受精～着床～出生について、唯一無二の存在
4	各論②	新生児期～幼児期(前期)の発達について
5	各論③	幼児期～就学にむけての発達、変化とは?
6	小まとめ	原始反射・身体面の発達(出生～初期歩行まで)
7	各論④	学童期(前期)の特徴(身辺処理、集団適応等)
8	各論⑤	学童期(後期)の特徴(心の変化、体の変化等)
9	各論⑥	青年期の特徴(第2次性徴、思春期とは何か等)
10	各論⑦	成人期(前期)理想と葛藤、経験、自己実現等
11	各論⑧	成人期(後期)それぞれの道、価値感の多様化
12	各論⑨	更年期とは?加齢とは?老いとは?
13	各論⑩	高齢期・死生観・人生100歳時代にむけて
14	総論②	振り返り、要点整理、国家試験問題の紹介
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義中心の授業を行う。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： 運動学 I

担当講師名： 笹野 直人

単 位： 2 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 運動学に必要な基礎的知識や専門用語などを習得し、人体構造と機能を理解する。

【講義概要】

ヒトの運動機能のうち、主に筋収縮による関節運動を扱う。

環境要因としての重力と、その影響下にある力学の基礎も学習する。

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	授業予定、運動学の概略について
2	生体力学の基礎(1)	変位、速度、加速度
3	生体力学の基礎(2)	円運動、筋力と重力
4	生体力学の基礎(3)	ベクトルとスカラー、モーメント
5	生体力学の基礎(4)	運動法則、仕事とエネルギー
6	生体力学の基礎(5)	身体とてこ
7	運動器の構造と機能(1)	骨の構造と機能、関節の構造と機能
8	運動器の構造と機能(2)	骨格筋の構造、筋収縮機序、筋繊維の種類
9	運動器の構造と機能(3)	運動単位、筋収縮の様態
10	運動の中樞神経機構(1)	脊髄反射、立ち直り反射、平衡運動反射
11	運動の中樞神経機構(2)	随意運動、フィードバック制御とフィードフォワード制御、運動計画
12	栄養とエネルギー代謝	基礎代謝、エネルギー代謝、代謝当量
13	身体運動のエネルギー代謝	有酸素、無酸素運動
14	運動処方	トレーニング効果、ボルグ指数
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/身体障害および高齢期障害領域の実務経験）
 講義中心の授業を行う。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： 運動学Ⅱ

担当講師名： 中村 正行

単 位： 1 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 解剖学における骨・関節・筋の理解を深め、筋の収縮によって生じる作用を理解する

【講義概要】

体表からの触知によって筋活動の情報を得る技術を習得する。

各関節の動筋・拮抗筋の走行を学習し、関節運動と筋収縮の関連を理解する。

回数	項 目	内 容
1	触診の基礎	骨・関節のランドマーク触診①
2		骨・関節のランドマーク触診②
3	上肢筋の走行と関節運動	上肢帯の筋の触診
4		肩関節の筋の触診
5		肘関節・前腕の筋の触診
6		手指の関節運動と筋①
7		手指の関節運動と筋②
8		上肢まとめ
9	下肢筋の走行と関節運動	股関節の筋の触診
10		膝関節の筋の触診
11		足関節・足趾の筋の触診
12		下肢まとめ
13	体幹筋の走行	体幹筋の触診①
14		体幹筋の触診②、顔面・頭部の筋
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/身体障害領域の実務経験）
 実技を中心とした授業を行うので、各自、動きやすい服装で臨むこと。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 1 科 目 名 : 運動学実習

担当講師名 : 中村 正行

単 位 : 2 単位 教育時間 : 45 時間

教育目標 (到達目標) : 運動学 I・II で学んだ内容を基に、姿勢と動作の分析を学び・理解する

【講義概要】

姿勢観察・動作分析を行い、ヒトの運動を分析する方法の基礎を学ぶ。特殊な機器を使用せず、自身の目による観察を主としているため、汎用性の高い方法である。

回数	項 目	内 容
1	基礎学習	運動器として見る骨・関節・筋の関係①
2		運動器として見る骨・関節・筋の関係①
3		関節運動における重力と筋張力①
4		関節運動における重力と筋張力②
5		身体の平衡①
6		身体の平衡②
7		姿勢、姿勢分析について
8	姿勢観察実習	姿勢観察(端坐位)
9		姿勢観察(立位)
10	姿勢分析実習	姿勢分析(端坐位)①
11		姿勢分析(端坐位)②
12		姿勢分析(端坐位)③
13		グループレポート作成
14	デモンストレーション	端坐位解説
15	動作分析実習	動作分析概要、歩行
16		動作分析(立ち上がり)①
17		動作分析(立ち上がり)②
18		動作分析(立ち上がり)③
19		レポート作成
20	デモンストレーション	立ち上がり解説
21	動作介助実習	動作介助(寝返り・起き上がり)
22		動作介助(立ち上がり・移乗)
23	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員(作業療法士/身体障害領域の実務経験)

グループでの実習を中心とした授業を行う。実習内容と結果についてのレポートも、グループワークで作成して提出すること。動きやすい服装で臨むこと。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： 病理学

担当講師名： 非常勤講師

単 位： 2 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 臨床的に必要な病理学の知識を身につける。

【講義概要】

疾患による病変または組織の経時的な変化について、マクロ（症状）とミクロ（原因）の両側から学ぶ。

講義において病因論・退行性病変・進行性病変・免疫・炎症・臨床薬理を扱う。

回数	項 目	講 義 内 容
1	病理学の概要、病因論	病理学の定義と、疾患の様々な原因（病因）について理解する。
2	退行性病変，進行性病変	細胞や組織の退行性、進行性的変化について理解する。
3	代謝障害	様々な栄養素の代謝異常により引き起こされる病態について理解する。
4	循環障害	体液循環のシステムと、局所ならびに全身性の循環障害について理解する。
5	免疫	免疫の概念と、免疫反応に伴う傷害と疾患について理解する。
6	炎症	炎症の原因、種類、経時的変化について理解する。
7	感染症	感染症の成立、感染経路、日和見感染症について理解する。
8	腫瘍①	腫瘍の定義、命名法と分類について理解する。
9	腫瘍②	腫瘍の肉眼と組織形態、異型度、分化度、進展形式について理解する。
10	腫瘍③	腫瘍発生の原因と発がんのメカニズムについて理解する。
11	老化	老化の概念と原因、老化に伴う生理学的変化について理解する。
12	先天異常、奇形	遺伝子異常による疾患と遺伝性疾患、染色体異常、奇形について理解する。
13	臨床薬理①	薬物の作用機序、投与方法、体内動態について理解する。
14	臨床薬理②	対象疾患に関連した薬物療法と、副作用や有害事象について理解する。
15	まとめ	総合確認
16	テスト	

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義中心の授業を行う。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： 精神医学

担当講師名： 非常勤講師

単 位： 3 単 位 教 育 時 間： 4 5 時 間

教育目標（到達目標）： 精神疾患の症状や治療について理解する。

【講義概要】

精神疾患の原因と病理と治療について学習する。

疾患（または発達障害）による症状の分類と治療的予後についても学習する。

回数	項 目	内 容
1	統合失調症	統合失調症の症状、原因、治療
2	〃	〃
3	〃	〃
4	躁病、うつ病	躁病、うつ病のメカニズムと治療
5	〃	〃
6	認知症	認知症の原因、症状、治療
7	〃	〃
8	〃	〃
9	人格の障害	人格の障害
10	〃	〃
11	てんかん	てんかんの原因と治療
12	〃	〃
13	小児の精神的発達	小児の精神的発達
14	〃	〃
15	広汎性発達障害	自閉症スペクトラム障害
16	〃	〃
17	その他の発達障害	ADHD、学習障害など
18	〃	〃
19	神経症性障害	不安、強迫を中心とする神経症性障害
20	〃	〃
21	〃	〃
22	身体疾患と精神疾患	身体疾患に伴う精神疾患、精神疾患から誘発される身体症状
23	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義を中心とした授業を行う。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名：ヘルスプロモーション

担当講師名：齋藤 勝

単 位：2 単位 教育時間：30 時間

教育目標（到達目標）：公共政策・支援環境・個人的スキルの観点から、健康的ライフスタイル・

ヘルスプロモーションを学ぶ。健康的な生活におけるリスク管理・救命救急のシステムと実際を理解する。

【講義概要】プライマリケアの概念をもとに、疾病予防・栄養学・公衆衛生・救命救急の

システムを学ぶ。救命救急については身近な手法の紹介も行う。

回数	項 目	内 容
1	ヘルスプロモーションとは	ヘルスプロモーションの定義、進めかた、具体例から概要を学ぶ。
2	公衆衛生とは	公衆衛生、プライマルヘルスケアの概念について学ぶ。
3	健康と環境	生態的環境、集団などの観点から健康について考える。
4	感染症と予防	感染症の成立要因と伝播様式を理解し、発生予防やまん延防止について学ぶ。
5	ストレスについて	ストレスについての概念を学ぶ。
6	レクリエーション①	レクリエーションの概念と簡単な演習
7	レクリエーション②	レクリエーション演習
8	食品保健と栄養	食生活の安全、栄養面からの健康について概観する。
9	医療の制度	医療サービスの供給体制や仕組みを学ぶ。
10	生活習慣病	生活習慣病対策としての健康づくり施策について学ぶ。
11	救命救急について	救命救急のシステムを学び、救命救急の手法などについて学ぶ。
12	健康教育とヘルスプロモーション	健康教育とヘルスプロモーションを事例をあげて学ぶ。
13	産業保健	職場におけるヘルスプロモーションを学ぶ。
14	精神保健福祉	メンタルヘルスなど精神保健の観点からヘルスプロモーションを考える。
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義を中心とした授業を行う。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： リハビリテーション概論

担当講師名： 板倉 麻紀

単 位： 2 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： リハビリテーションの理念・概念およびその対象疾患・障害を知る。

各領域における社会資源・就労支援について知る。

【講義概要】 リハビリテーションとは何か・施設基準と対象者・チームリハビリテーション・

関連法規・社会資源について、作業療法の視点から概観して学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	リハビリテーションとは	リハビリテーションの理念・概念・一般的イメージとの差異を知る。
2	リハビリテーション関連職	リハチームの専門職とその役割について学ぶ。
3	リハビリテーションの目標	リハゴールの設定とリハビリテーションの各種アプローチを学ぶ。
4	リハビリテーションと機器	福祉用具・補装具・家屋改修について、教材を用いて学ぶ。
5	リハビリテーションの対象	対象疾患の臨床像について診療科のカテゴリ別に学ぶ。脳血管障害。
6	リハビリテーションの対象	対象疾患の臨床像について診療科のカテゴリ別に学ぶ。整形外科。
7	リハビリテーションの対象	対象疾患の臨床像について診療科のカテゴリ別に学ぶ。神経筋疾患。
8	評価と治療	リハビリテーションにおける「評価」とは何か、導入的に学ぶ。
9	リスク管理	院内感染について学び、リスク軽減の方法を知る。
10	リスク管理	転倒予防・廃用症候群と廃用予防についての臨床的手法を学ぶ。
11	コミュニケーション技術	対象者との言語的・非言語的コミュニケーションについて、
12	コミュニケーション技術	具体例とともに、演習を交えて学ぶ。
13	施設基準と診療点数	各種リハビリテーション施設の施設基準・診療報酬などを学ぶ。
14	リハビリテーション関連法規	医療保険・介護保険・障害者福祉・就労支援などの制度の概要を学ぶ。
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義を中心とした授業を行う。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： 基礎OT学(OT概論Ⅰ)

担当講師名： 非常勤講師

単 位： 2 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 作業療法とは何か。歴史、対象者、法律等を学び、作業療法の基礎的知識を習得する。

【講義概要】

作業療法の歴史・制度・評価から治療への枠組みなど、作業療法の入門的内容を扱う。

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	授業の予定とOT概論Ⅰの概略について説明する
2	作業療法の紹介	作業療法士の活動の場、作業療法の簡単な紹介について説明する
3	作業療法とは	作業療法の定義、作業の定義、分類、治療的意味について学ぶ
4	作業療法の評価	作業療法の評価の目的と手段について学ぶ
5	作業療法の評価	ICF（国際生活機能分類）とICIDH（国際障害分類）について学ぶ
6	作業療法過程	作業療法の評価から治療（援助）への流れを学ぶ
7	作業療法と関連職種	作業療法士とチームメンバー、チームアプローチについて学ぶ
8	EBMと作業療法、医療記録	EBMの手順、SOAPによる医療記録について学ぶ
9	職業人としての倫理	倫理と綱領について学ぶ
10	PT・OT法	理学療法士及び作業療法士法を理解する
11	医療観察法、入院形態	医療観察法や精神保健・福祉に関する法律による入院を理解する
12	リハビリテーション、OTの歴史	リハビリテーションの歴史、OTの歴史
13	リハビリテーション、OTの歴史	リハビリテーションの歴史、OTの歴史
14	総復習	全体の要点について説明する
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

教科書の他に参考資料（プリント）を配布します。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： 基礎OT学(OT概論Ⅱ)

担当講師名： 非常勤講師

単 位： 2 単位 教育時間： 30 時間

教育目標（到達目標）： 作業療法の過程について理解し、「身体障害領域」「精神障害領域」「老年期障害領域」「小児発達障害領域」のOTの役割について学ぶ

【講義概要】

作業療法の現場でよく遭遇する代表的な疾患について学習し、病期に応じた

評価・治療の全体的な流れを学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	授業予定、概略について
2	精神疾患	評価から治療へ
3	統合失調症	症状、評価、治療（援助）、OTの役割
4	気分障害	症状、評価、治療（援助）、OTの役割
5	神経症	症状、評価、治療（援助）、OTの役割
6	その他の精神疾患	症状、評価、治療（援助）、OTの役割
7	認知症	症状、評価、治療（援助）、OTの役割
8	発達障害	症状、評価、治療（援助）、OTの役割
9	脳卒中	症状、評価、治療（援助）、OTの役割
10	パーキンソン病	症状、評価、治療（援助）、OTの役割
11	脊髄損傷	症状、評価、治療（援助）、OTの役割
12	ALS、筋ジス	症状、評価、治療（援助）、OTの役割
13	RA	症状、評価、治療（援助）、OTの役割
14	ギランバレー、その他	症状、評価、治療（援助）、OTの役割
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

教科書の他に参考資料（プリント）を配布します。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 1 科 目 名 : OT評価学Ⅰ(身体障害評価学Ⅰ)

担当講師名 : 笹野 直人

単 位 : 1 単 位 教 育 時 間 : 30 時 間

教育目標 (到達目標) : 各種検査・測定等の実技を中心に身体障害評価の基礎を学習し、これを修得する。

【講義概要】

主に関節可動域の測定方法(検査)の実技を学ぶ。

被検査者への応対やオリエンテーションの方法も重要な学習内容である。

回数	項 目	内 容
1	評価学の基礎	身体障害評価について、その意義と目的を学習する。
2	バイタルサインの測定	各種バイタルサイン(血圧、脈拍等)の測定を中心に学習する。
3	形態計測	四肢長・周径を中心に形態計測方法を学習する。
4	関節可動域の測定	概要
5	関節可動域の測定	肩甲帯
6	関節可動域の測定	肩関節、肘関節、前腕
7	関節可動域の測定	肩関節、肘関節、前腕
8	関節可動域の測定	手関節、母指、第2～5指
9	関節可動域の測定	手関節、母指、第2～5指
10	関節可動域の測定	股関節、膝関節、足関節
11	関節可動域の測定	股関節、膝関節、足関節
12	関節可動域の測定	体幹
13	関節可動域の測定	全体統括
14	関節可動域の測定	全体統括
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員(作業療法士/身体障害領域の実務経験)

学生同士が検査者と被検査者になって実習を行う形式の授業である。

動きやすい服装で臨むこと。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 1 科 目 名 : OT治療学1(基礎作業学実習Ⅰ)

担当講師名 : 奈良 研治

単 位 : 1 単 位 教 育 時 間 : 30 時 間

教育目標 (到達目標) : 制作活動を通して作業手順、方法等、必要とされる身体的・精神的機能、効果について理解する。

【講義概要】

実際にアクティビティを実施することにより、その特性や段階づけも含めて工程を学ぶ。

全日程を通じて、物品や道具の管理を徹底し、不測のリスクを負わない習慣を身につける。

回数	項 目	内 容
1	道具学	道具、用具の特徴、使用方法を理解する。
2	木工	材料、道具の特性を知り、全体像を学ぶ。設計図の基本の学習と実技。
3	木工	木取り(鋸引き)、仮組みを行う。
4	木工	組みたて(釘打ち)、やすりがけを行う。
5	木工	ニス塗りをを行う。作業特性(身体的特性、精神的特性)を理解する。
6	七宝焼き	用具、道具の特性を知り、全体像を理解する。
7	七宝焼き	裏引き、釉薬作り、色盛り、作品の焼成を行う。
8	ネット手芸	作業の一般的特徴を知り、全体像を理解する。
9	ネット手芸	デザイン決め、キャンパス裁断をする。
10	ネット手芸	模様決め、針を使用してネットに糸を通す。
11	ネット手芸	〃
12	ネット手芸	〃
13	ネット手芸	パーツを組み合わせて完成。
14	ネット手芸	治療的特性(身体的側面、精神的側面)を学びレポートを作成する。
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員(作業療法士/精神障害および高齢期障害領域の実務経験)

各アクティビティの工程を説明した後、実習を行う。

適宜、ノートをとり、作業中に気づいたことを記録しておくこと。授業中にフィードバックします。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 1 科 目 名 : OT治療学2(基礎作業学実習Ⅱ)

担当講師名 : 奈良 研治

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教育目標 (到達目標) : 制作活動を通して作業手順、方法等、必要とされる身体的・精神的機能、効果について理解する。

【講義概要】

実際にアクティビティを実施することにより、その特性や段階づけも含めて工程を学ぶ。

全日程を通じて、物品や道具の管理を徹底し、不測のリスクを負わない習慣を身につける。

回数	項 目	内 容
1	タイルモザイク	製作活動 作業特性を知る
2	タイルモザイク	〃
3	タイルモザイク	〃
4	タイルモザイク	〃
5	編み物	製作活動 作業特性を知る
6	編み物	〃
7	編み物	〃
8	編み物	〃
9	編み物	〃
10	籐細工	製作活動 作業特性を知る
11	籐細工	〃
12	籐細工	〃
13	籐細工	〃
14	籐細工	〃
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員(作業療法士/精神障害および高齢期障害領域の実務経験)

各アクティビティの工程を説明した後、実習を行う。

適宜、ノートを取り、作業中に気づいたことを記録しておくこと。授業中にフィードバックします。

2020年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 1 科 目 名： OT治療学5(ADL)

担当講師名： 非常勤講師

単 位： 1 単 位 教 育 時 間： 30 時 間

教育目標（到達目標）： 日常生活活動(ADL)の概念、作業療法士の役割、評価、介入方法など基本的な事柄を

学習し、疾病の種類にかかわらず作業療法という立場でADLに介入する基本的な概念、知識、技術について理解することで、各疾患への介入方法へつなげる。従来、身辺処理のみに限定されていたADLを日本作業療法士協会の考え方を取り入れ、拡大したADLを学習していく。なお常に最新の作業療法の理論・実践を伝えるために教育計画を変更することがある。

【講義概要】

ADLの項目ごとに動作を学習した後に、各疾患に特有のADL障害を学ぶ。

同時に、ICF・FIM・COPM・AMPSなどの評価分類の学習も進める。

回数	項 目	内 容
1	ADLの定義と作業療法の役割	日常生活活動の概念と範囲。作業療法の理念と役割。
2	ADL種目別理解(1)	食事・排泄・起居・移動活動
3	ADL種目別理解(2)	更衣・整容・入浴・コミュニケーション活動
4	ADL種目別理解(3)	健康管理・家庭生活・社会活動
5	ICFとは何か	ICF（国際生活機能分類）
6	何のためにADLを評価するのか	評価の過程・目標と方法
7	実際に行うにあたって	活動遂行に関わる諸問題の検討
8	ADL評価としてのFIM	FIM（機能的自立度評価法）
9	パーキンソン病	パーキンソン病とADL
10	片麻痺	片麻痺者の特徴とADL
11	福祉用具	福祉用具と代償的アプローチについて
12	高齢者	在宅高齢者
13	精神障害者・高次脳機能障害者	精神障害者のADLと高次脳機能障害者のADL
14	COPM・AMPS	OTとしてのADLの見方
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義を中心とした授業を行う。

2020年度 教育計画 (作業療法学科)

学 年 : 1 科 目 名 : OT治療学9(精神科OT学Ⅰ)

担当講師名 : 齋藤 勝

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教育目標 (到達目標) : 精神科医療、精神科作業療法について「臨床の知識」として学びつつ、

対象者に対応する際の視点として役立てるようになる。

【講義概要】

精神科領域の作業療法の臨床では、治療と評価が同時に行われることも多い。

ここでは各種理論を紹介するが、一連の流れを学習しやすいように評価と治療を合わせて扱う。

回数	項 目	内 容
1	概要	精神科作業療法とは
2	精神科医療状況概論	精神科医療を取り巻く状況、歴史
3	精神科領域での基礎理論	自己理解、精神分析学
4	"	来談者中心療法、生活臨床、発達理論
5	"	集団理論
6	"	行動、学習理論、行動療法
7	"	認知行動療法
8	"	ストレス理論
9	"	自律訓練法と弛緩訓練法、感覚統合
10	"	情報処理論
11	"	薬物療法
12	"	予後と再発
13	"	病識、家族研究、障害論
14	"	就労
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員【作業療法士/精神障害領域の実務経験】

講義中心の授業を行う。